

ソリューションによる環境貢献

ソリューションの提供を通じてお客様や社会の環境負荷を低減していくために、「環境貢献ソリューション」の拡大をグローバルに取り組んでいます。

基本的な考え方

地球規模で温室効果ガス排出量を削減するには、電力消費を抑えるための取り組みや関連する環境技術の開発だけでなく、ワークスタイルやライフスタイルを大きく変革していく必要があります。このようなイノベーションを実現するには、ICTの普及が不可欠であり、その活用は今後ますます重要になっていきます。

富士通グループは、こうした「ICTの活用による環境負荷低減（Green by ICT）」の観点から、先進グリーンICTの提供をグローバルに推進し、グリーンICTプロジェクト「Green Policy Innovation」で掲げたCO₂排出量削減目標の達成、また社会全体の環境負荷低減に貢献していきます。

2011年度の取り組み方針

「CO₂排出量削減」に加え「節電」「省エネ」提案を推進

「Green Policy Innovation」におけるCO₂排出量削減目標を達成するには、ICTの活用による環境負荷低減を積極的に推進していく必要があります。2011年度は東日本大震災を機に、「節電」「省エネ」に対するお客様のニーズが高まったのをうけ、これまでの「CO₂排出量の削減」に加え、「ICTによる節電・省エネ」をお客様にご提案することで、お客様の環境負荷低減に貢献する運動を展開しました。

2011年度の取り組み

「環境貢献ソリューション」認定の拡大

ICTソリューションの導入は、より多くのサーバやパソコンの利用に伴い電力消費量が増加する一方で、ペーパーレス化や人・モノの移動の削減により、オフィスや倉庫スペースを効率的に利用できるという、環境への負荷が低減する側面もあります。

そこで、富士通グループでは、株式会社富士通研究所が開発した「環境影響評価手法」を用いて、ICTの導入による環境負荷低減効果（CO₂排出量削減効果）を定量的に評価し、一定基準を上回る製品・サービスを「環境貢献ソリューション」として認定しています。

2011年度は、「環境貢献ソリューション」への申請支援を充実させた結果、新規に28件を認定し、258件に達しました。2012年度も継続的に認定製品・サービスを拡大するとともに、CO₂排出量削減以外の観点も基準に加えるなど、認定制度の見直しを検討していきます。

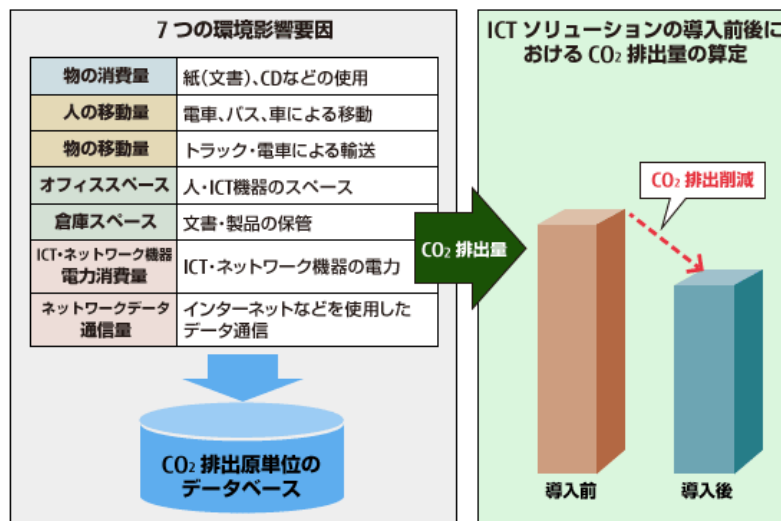
環境影響評価手法

ICTソリューションの導入による環境負荷低減効果を7つのカテゴリ（モノの消費、人の移動、モノの移動、オフィススペース、倉庫スペース、ICT機器の電力消費、ネットワークデータ通信）に分類して分析。富士通が開発したCO₂排出原単位（CO₂換算係数）を用いてCO₂排出量へと変換します。このCO₂排出量をICTソリューション導入前と導入後について算出し比較することで、削減効果を評価します。

なお、この手法は経済産業省や総務省が示す評価ガイドライン、また2012年3月に国際電気通信連合（ITU）において勧告

化 (L.1410) された手法に準じた考え方となっています。

環境影響評価手法の概要



- [環境影響評価手法](#)
- [【プレスリリース】 ICT製品・ネットワーク・サービスの環境影響評価手法の国際標準化「総務省」](#)

グローバルへの展開

環境負荷低減に貢献するソリューションをグローバルに展開していくために、2010年度から、海外でも「環境貢献ソリューション」認定制度がスタートしました。これまでに、海外担当者への「環境貢献ソリューション」評価手法のインプットや、認定体制の構築が完了し、ラオスでの遠隔医療システムなどの評価を行いました。今後さらに評価・認定件数を増やし、2012年度末までに国内と合わせて「第6期富士通グループ環境行動計画」の目標である部門・地域カバー率100%を目指します。

お客様への環境負荷低減効果の「見える化」を推進

「ICT活用による環境負荷低減」を推進していくためには、お客様にお使いいただくICTソリューションが「どのように」「どれだけ」環境に貢献しているかを理解していただくことが重要です。このような観点から、富士通グループではICTソリューションの環境負荷低減効果を「見える化」してお客様に積極的にご提案しています。2011年度は、低減効果の「見える化」提案件数の拡大を目指し、環境貢献試算Webツール「EcoCALC」の利用拡大に取り組みました。

このツールの利用拡大にあたって、2010年10月から、全国の営業拠点において営業・SEを対象とした操作説明会を計40回以上開催し、のべ1,500人以上が参加しました。この説明会の中で得た営業・SEの声を反映して、2012年1月に「EcoCALC」の全面リニューアルを実施。「CO₂排出量削減効果」だけでなく、お客様ニーズの高い「省エネ効果」「コスト削減効果」も計算可能な仕様に変更しています。



2012年1月にリニューアルした「EcoCALC」

また、環境負荷低減効果の「見える化」提案件数に応じてポイントを付与し、ポイント獲得上位の組織に全社イベントの中で表彰を行う推進活動を実施しました。この取り組みは、2011年10月の「グリーンITアワード2011」において「環境貢献試算Webツールの構築と省エネ社会実現に向けた全社活動」として評価され、審査員特別賞を受賞しました。



グリーンITアワード2011のロゴマーク



受賞式の写真

2012年1月には、「EcoCALC」の利用対象を富士通グループ内からビジネスパートナーにまで拡大し、より多くのお客様に環境負荷低減効果の「見える化」ができるようになりました。

今後は、優れた環境提案事例の横展開を推進するとともに、富士通のすべての提案における環境負荷低減効果の「見える化」の実施を目指します。また、「EcoCALC」のグローバル展開を進め、より多くのお客様に環境負荷低減効果を「見える化」できるようにつとめていきます。

事例

仮想化技術の導入により、業務の効率化および消費電力・CO₂排出量削減を実現

富士通は、独立行政法人国立病院機構呉医療センター様と共同で、呉医療センター様の医療情報システムを仮想化技術により、高セキュリティで利便性の高いシンクライアント方式のシステムに全面刷新しました。

これまで、呉医療センター様の医療情報システムでは、「電子カルテシステム」とWebブラウザや電子メール、診療科データベースといったインターネットに接続できる「情報系システム」は、セキュリティ上の問題から独立したネットワークで管理されていました。そのため、この2つのシステムはそれぞれ別の端末で使用しなければならず、迅速な対応が求められる医療現場において業務の効率化は課題となっていました。また、各診療科では、例えば手術の管理情報は、電子カルテシステムに入力したデータを手術管理台帳システムに再入力する二重管理が必要になるなど、業務効率化に加えて人為的ミスの防止も課題でした。

こうした中、電子カルテ系と情報系の2つの仮想サーバを設置し、端末上の2つの仮想サーバ画面が同時に表示される仕組みを構築。また、シンクライアント方式と接触型ICカードによるシングルサインオン（注1）などの採用により情報漏洩対策を強化し、電子カルテシステムを使いながらインターネットの利用が可能になるなど、利便性とセキュリティを両立したシステムを構築しました。また、本システムには、ローミング機能も搭載しているため、病院職員は、自分のファイルを院内のどの端末からも呼び出すことができ、業務の効率化を実現します。

本システムの導入による環境負荷低減効果として、仮想化技術によるサーバ統合でCO₂の排出量を従来比約6割、シンクライアント方式による端末のCO₂排出量を従来比約7割、最大で約8割削減することが可能となり、合わせて約150トンのCO₂排出量削減効果が見込まれています。

このように、富士通はICTを駆使し、お客様の業務をサポートするとともに環境負荷低減に貢献していきます。

（注1）シングルサインオン：

ユーザーが一度認証を受けるだけで、許可されているすべての機能（システム、アプリケーション、データなど）を利用できるようになるシステム。



カルテ画面とWebブラウザ画面を同時に表示

- [【プレスリリース】 呉医療センターの医療情報システムを仮想化技術で全面的に刷新](#)

事例

「ハードウェア製品の買い替えによる省エネ効果・CO₂排出量削減効果」の提案

富士通の第二社会基盤ビジネス本部では、お客様の環境負荷低減に貢献するために、「ハードウェア製品の買い替えによる省エネ効果・CO₂排出量削減効果」の提案を行いました。

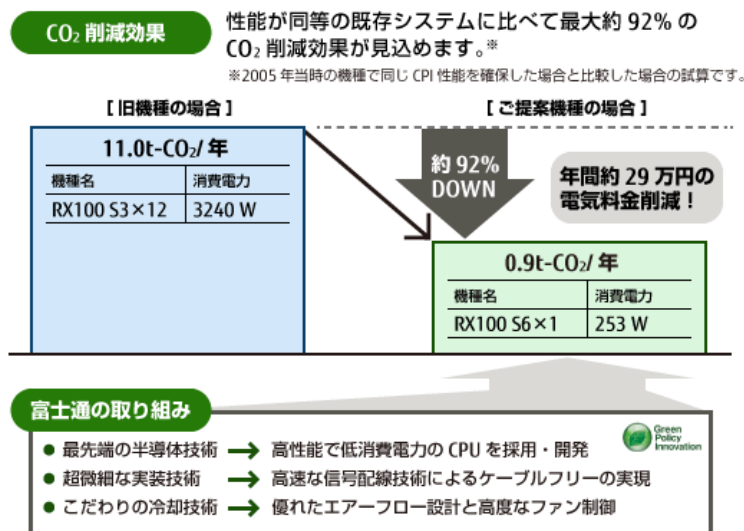
まず、富士通の新旧機種間で、買い替えによる消費電力・CO₂排出量削減効果がどの程度あるかを調査し、その結果をお客様への提案フォーマットとしてまとめることで本部の社員が気軽に提案できるようにしました。また、他社機器も含めたお客様のシステム全体を最新の富士通機器に買い替えた場合の「消費電力・CO₂排出量削減効果」を算定し、ハードウェア製品の入れ替えによる効果をお伝えする取り組みも行いました。さらに、ICT導入によって生じる「消費電力削減率」「消費電力削減量」「CO₂排出量削減率」「CO₂排出量削減量」のいずれかを明記した提案件数を部署ごとに集計。その結果、本部の中で提案件数を増やす意識が芽生え、提案活動が活性化しました。

こうした活動により、「消費電力・CO₂排出量削減効果」を訴求した提案の件数は、2010年度と比較して約120倍に増加。お客様による環境負荷低減を目的としたハードウェア製品の買い替えを促進することができました。

一連の活動は、社内の表彰制度である環境貢献賞において2011年度の「環境特別表彰」も獲得しています。また同本部の社員からは、「省エネ効果について、具体的数値をお客様に見せることで提案の魅力が増した」「営業活動において、環境活動にどう取り組めば良いかがわかった」などの声がありました。

今後も本活動を継続し、お客様の環境負荷低減に貢献していきます。

社内で活用している提案内容の一例



- [環境ソリューション：過去事例](#)

環境ソリューションの提供

お客様のビジネス成長と環境負荷低減の両立を目指して、環境経営の実践と高度化を支えるソリューションを提供しています。

基本的な考え方

環境問題が深刻化する中、持続的に事業活動を行っていくには、ビジネスの成長と環境負荷低減を両立した環境経営を推進していく必要があります。

富士通では、お客様の環境経営を支援するための環境ソリューションを提供しています。お客様の環境活動を評価し、経営の視点から統合的に改善すべき課題を「見える化」。お客様のビジネス戦略に応じた形で環境課題を解決する方策を提案します。さらに、現状の評価や方策の立案だけでなく、実施、課題抽出、不備の改善に至るまで、PDCAサイクルを実行することで、お客様の環境経営の継続的な高度化を支援しています。

2012年度は、2011年夏に国内の富士通グループで最大41%のピークカットを実現した「環境経営ダッシュボード」をお客様に提供していきます。ピークカットはもちろん、エネルギーコストを新たな経営指標として捉え、環境ソリューションの提供を通じたお客様のコスト削減を実現していきます。

- [環境経営ダッシュボード](#)
- [環境ソリューション](#)